

お知らせ記者発表資料
配布日時令和2年 7月 1日
14:00

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

逃げ遅れゼロをめざし、多くの機関が連携！ ～中国地方の全ての一級水系で「水害タイムライン」が完成～

平成30年7月豪雨災害を教訓に、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指し、管内全ての一級水系(13水系)で、「水害タイムライン」の早期整備に取り組んできました。このたび、「多くの関係機関が連携した大規模水害への備え」が整いましたのでお知らせします。

平成30年7月豪雨は、逃げ遅れにより多くの方が犠牲になるなどの甚大な被害をもたらしました。水系毎の水災害の特徴を考慮した「水害タイムライン」の運用により、流域住民の確実な避難へ繋げ、「逃げ遅れゼロ」を目指します。また、完成した「水害タイムライン」は、「逃げ遅れゼロ」に加え「社会経済被害の最小化」にも着目し、社会経済の被害を最小化することで、大規模水害後の社会生活の早期復旧を目指します。

連携する機関は、気象台、県市町村に加え、警察、消防等の救援・救助機関、道路管理者、鉄道・バス等の公共交通、電気・水道・ガス・通信等のライフライン事業者、さらには報道機関など、13水系でのべ434の機関から構成されています。また、「水害タイムライン」は出水期中の運用後、連携機関による見直しを行い、一体となって近年頻発している大規模水災害に備えます。

(※) タイムラインとは

災害の発生を前提に、防災に関わる関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ共有した上で、「いつ」「だれが」「なにをするか」の3つの要素に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。

< 問い合わせ先 >

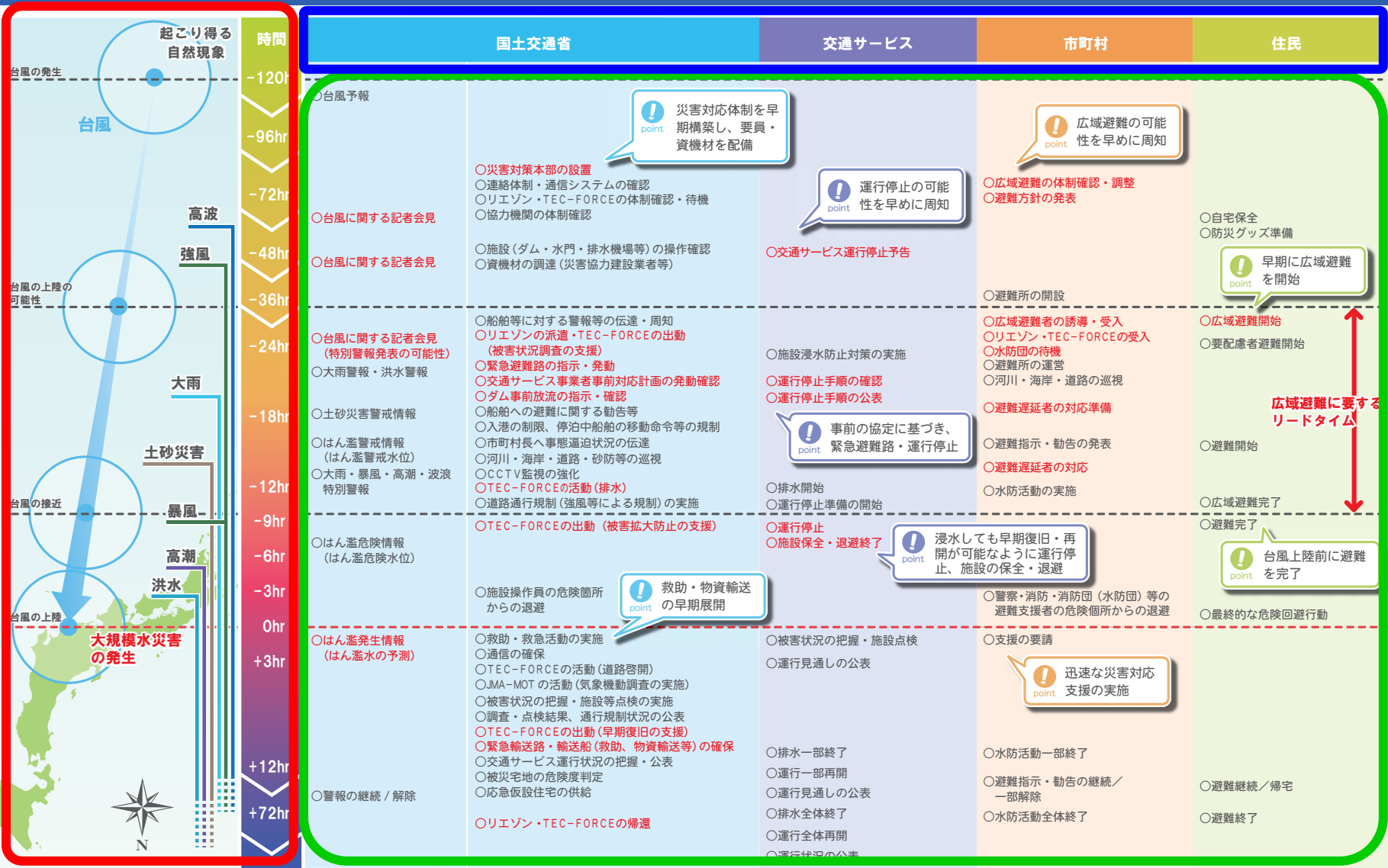
国土交通省 中国地方整備局河川部 082-221-9231 (代表)
水災害対策センター長 かねはら かつひで 兼原 勝英 (内線3881)
建設専門官 むらおか かずみつ 村岡 和満 (内線3882)

< 広報担当窓口 >

国土交通省 中国地方整備局 082-221-9231 (代表)
広報広聴対策官 かとう こうじ 加藤 浩士 (内線2117)
企画部 環境調整官 ごとう としひさ 後藤 寿久 (内線3114)

タイムラインとは、「いつ」「だれが」「なにをするか」を取りまとめた計画のことです

大規模水災害に関するタイムライン（防災行動計画）の流れ



※タイムラインに関わる関係機関、防災行動は多岐にわたりますが、本イメージ図は国土交通省の対応や広域避難と交通サービスに着目して整理したものであり、時間軸の設定、対応の実施などにあたっては、今後の検討、調整が必要になります。また、赤字は特に対応強化の必要と考えられる項目です。

発動する水害タイムライン

「逃げ遅れゼロ」・「社会経済被害の最小化」の実現

想定被害

タイムライン運用

効果



住民の逃げ遅れ



自治体が避難に必要な情報発信



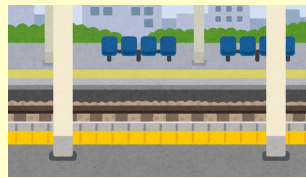
報道機関などと協力して住民へ周知



命を守り、避難時の安全を確保



駅の混乱



計画運休など情報発信



報道機関が住民へ周知



駅滞留者をなくし
混乱を未然に防御

道路の渋滞・通行止め



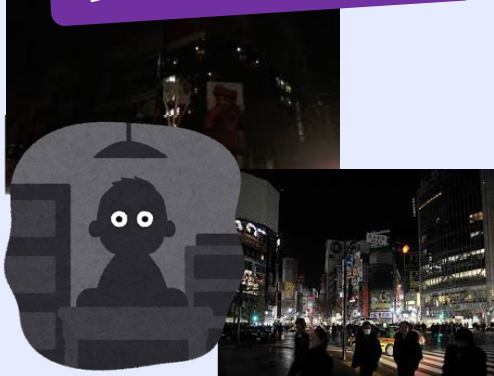
通行止め、迂回路路線など
情報発信

報道機関が住民へ周知



災害時の交通渋滞・混乱
を緩和

ライフライン供給停止



供給停止・緊急対応など
情報発信

報道機関が住民へ周知

水、電気、通信など
生活基盤を確保



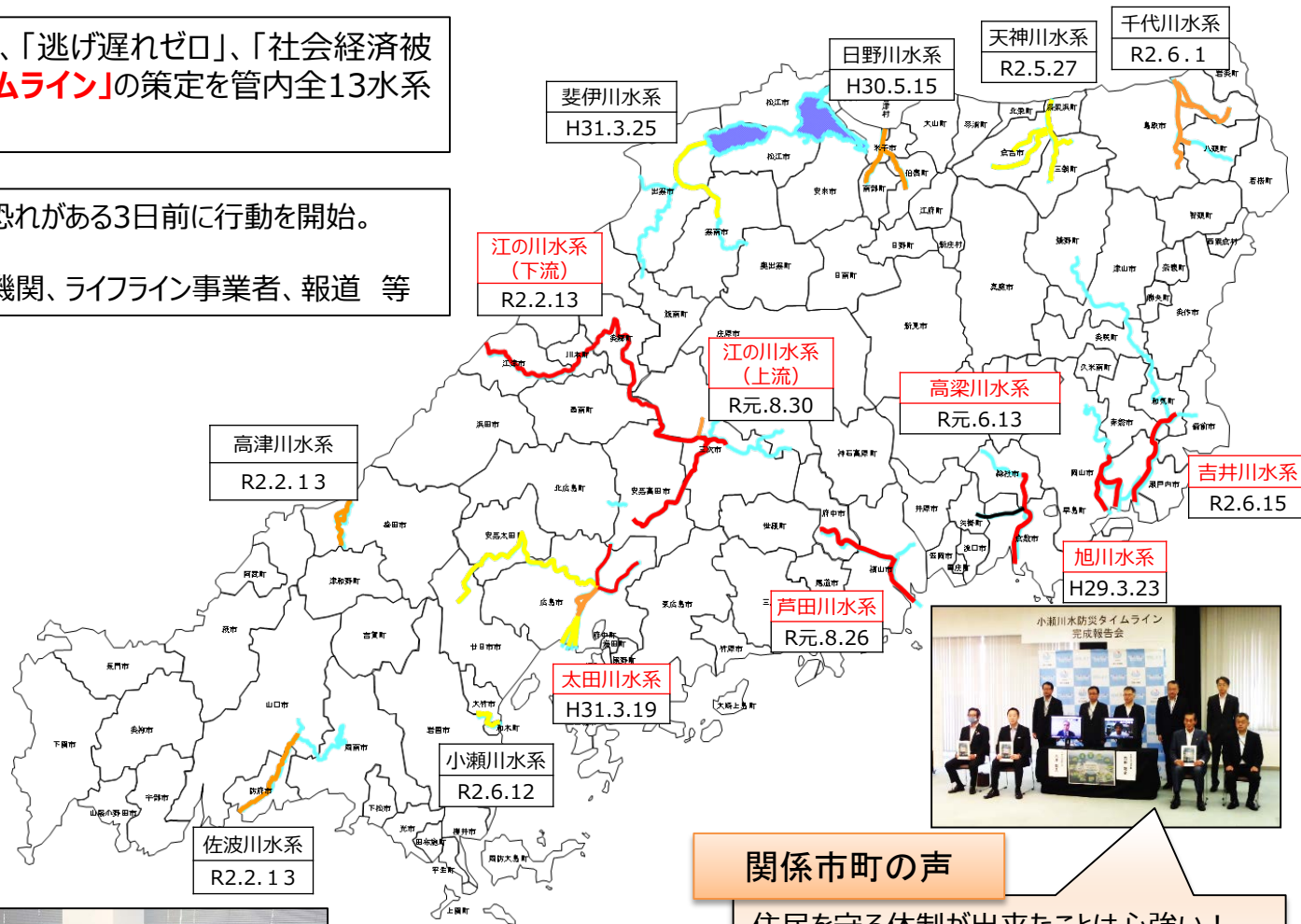
中国地方すべての一級水系で『水害タイムライン』が完成！

○中国地整では平成30年7月豪雨を教訓に、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」をめざし、「**多機関連携型タイムライン**」の策定を管内全13水系すべての河川で完了し、運用中。

○台風及び前線性の降雨に対応し、災害発生のおそれがある3日前に行動を開始。
【連携する機関】
国、流域内の地方自治体、ダム管理者、交通機関、ライフライン事業者、報道 等

タイムライン運用後のふり返りでの 主な意見

1. 出水対応の変化
 - ・他の機関と協力することの利点を認識
 - ・防災行動の事前チェックが可能に
 - ・情報共有や連携がスムーズに
2. 出水対応での利点
 - ・先を見越した対応が可能に
(例、体制の確保、情報発信の準備等)
 - ・情報発信漏れを防ぐことが可能に
 - ・他の機関の動きを容易に把握可能に



関係市町の声

住民を守る体制が出来たことは心強い！
役割分担が明確になった

凡例

H30.7豪雨での到達水位レベル

- レベル5(氾濫の発生)
- レベル4(氾濫危険水位超過)
- レベル3(避難判断水位超過)
- レベル2(氾濫注意水位超過)

水系名 H30.7豪雨で氾濫危険水位を超えた河川

水系名

完成式実施日

タイムライン運用後のふり返りの様子(令和元年11月実施)

